



## ハードウェア リファレンス ガイド

### HP Compaq Business PC dc7600 US

製品番号 : 383421-291

**2005年5月**

このガイドでは、HP Compaq dc7600 USの特長および使い方について、また内部コンポーネントの取り外し方と取り付け方の手順について詳しく説明します。

© Copyright 2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他、本書に掲載されている会社名、製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。**本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。**本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しては、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護された所有権に関する情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、Hewlett-Packard Companyの書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他言語へ翻訳することはできません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

以下の記号は、本文中で安全上重要な注意事項を示します。



---

**警告：**その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがあるという警告事項を表します。

---



---

**注意：**その指示に従わないと、装置の損傷やデータの損失を引き起こす恐れがあるという注意事項を表します。

---

**ハードウェア リファレンス ガイド**  
HP Compaq Business PC dc7600 US

初版 2005年5月  
製品番号：383421-291

日本ヒューレット・パッカード株式会社

---

# 目次

## 1 コンピュータの機能

標準構成の機能	1-1
フロント パネルの各部	1-2
リア パネルの各部	1-3
標準キーボードの各部	1-4
Windowsロゴ キー	1-5
シリアル番号および製品識別番号の記載位置	1-6
縦置きまたは横置きの選択	1-6

## 2 ハードウェアのアップグレード

アクセス パネルの取り外しと取り付け	2-1
フロント パネルおよびマルチベイの取り外しと取り付け	2-4
縦置き用スタンドの取り付けと取り外し	2-7
メモリの増設	2-11
DIMM	2-11
DDR2-SDRAM DIMM	2-11
DIMMソケット	2-12
メモリ モジュールの取り付けまたは取り外し	2-14
拡張カードの増設または取り外し	2-17
拡張カードの取り付け	2-18
拡張カードの取り外し	2-22
ハードディスク ドライブのアップグレード	2-24
マルチベイの使い方	2-29
マルチベイ ドライブの「ホットプラグ」または「ホットスワップ」	2-30
マルチベイ固定つまみのロックおよび解放	2-31
マルチベイからのドライブの取り外し	2-34
マルチベイへのドライブの挿入	2-35
マルチベイ用ハードディスク ドライブのパーティション分割およびフォーマット	2-36

**A 仕様**

**B バッテリの交換**

**C セキュリティ**

オプションのセキュリティ ロックの取り付け .....	C-1
ケーブル ロック .....	C-1
南京錠 .....	C-2
ユニバーサル シャシー クランプ ロック .....	C-3

**D 静電気対策**

静電気による損傷の防止 .....	D-1
アースの方法 .....	D-2

**E コンピュータ操作のガイドラインおよび手入れと運搬時の注意**

コンピュータ操作のガイドラインおよび手入れに関する注意 .....	E-1
オプティカル ドライブの使用上の注意 .....	E-2
操作および取り扱いに関する注意 .....	E-2
クリーニングの際の注意 .....	E-2
安全にお使いいただくためのご注意 .....	E-3
運搬時の注意 .....	E-3

**索引**

---

## コンピュータの機能

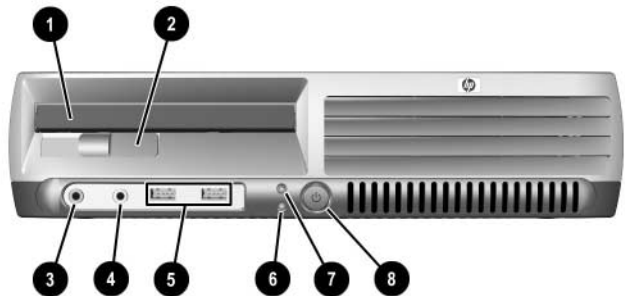
### 標準構成の機能


HP Compaq dc7600 USの機能は、モデルにより異なる場合があります。お使いのコンピュータに取り付けられているハードウェアおよびインストールされているソフトウェアの一覧を表示するには、診断用ユーティリティを実行します。このユーティリティの使用手順については、Documentation and Diagnostics CD（ドキュメンテーションおよび診断ユーティリティ CD）に収録されている『トラブルシューティング ガイド』を参照してください。



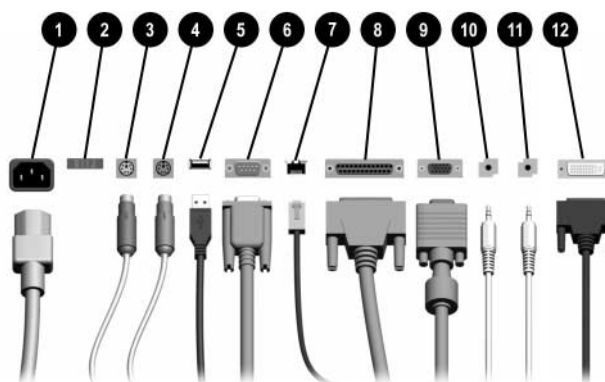
dc7600 USの構成

## フロント パネルの各部



❶	マルチベイ	❺	USB (Universal Serial Bus) コネクタ (× 2)
❷	マルチベイ イジェクト レバー	❻	電源ランプ
❸	マイク コネクタ	❼	ハードディスク ドライブ ランプ
❹	ヘッドフォン コネクタ	❽	電源ボタン
 どのUSB装置（キーボードやマウスを含む）を、どのUSBコネクタに接続しても構いません。			

## リア パネルの各部



①	電源コード コネクタ	⑦	루터 RJ-45ネットワーク コネクタ
②	電圧選択スイッチ	⑧	🖨️ パラレル コネクタ
③	🖱️ PS/2マウス コネクタ (緑色)	⑨	🖥️ モニタ コネクタ
④	🖱️ PS/2キーボード コネクタ (紫色)	⑩	🎵 ラインアウト コネクタ (緑色) : このコネクタからは接続した機器に対して電力は供給されません
⑤	🔌 USB (Universal Serial Bus) コネクタ	⑪	🎵 ラインイン オーディオ コネクタ (青色)
⑥	📡 シリアル コネクタ	⑫	🖥️ デジタル ビデオ インタフェース (DVI-D) モニタ コネクタ (オプション)

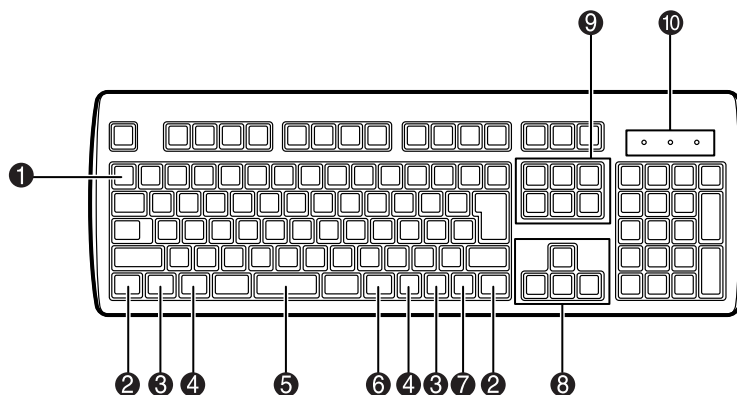


装備されているコネクタの種類や数は、モデルにより異なる場合があります。

PCIグラフィックス カードが取り付けられている場合、カードのコネクタおよびシステム ボードのコネクタを同時に使用することができます。両方のコネクタを使用するには、一部の設定をコンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティで変更する必要があります。起動順序について詳しくは、Documentation and Diagnostics CDに収録されている『コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ ガイド』を参照してください。

オプションのDVI-DコネクタはDVIディスプレイにのみ対応しています。アナログ入力形式のディスプレイに対応させることはできません。

## 標準キーボードの各部



①	[半角/全角]キー	日本語入力システムのオン/オフを切り替えます
②	[Ctrl]キー	別のキーと組み合わせて使用します。この機能は、お使いのアプリケーションソフトウェアによって異なります
③	[田]キー	Microsoft® Windows® の[スタート]メニューを表示します。他の機能を実行するために他のキーと組み合わせて使用します
④	[Alt]キー	別のキーと組み合わせて使用します。このキーの機能は、お使いのアプリケーションソフトウェアによって異なります
⑤	スペース バー	日本語入力がオフのときに押すと、スペース（空白）を入力したり、ある選択肢をキーボードから選択したりできます。日本語入力がオンのときに入力した文字を確定する前に押すと、漢字などに変換できます
⑥	[カタカナ ひらがな]キー	日本語入力がオンのときに[Alt]キーを押しながら[カタカナ ひらがな]キーを押すことにより、入力モード（ローマ字入力とかな入力）を切り替えられます
⑦	アプリケーション キー	マウスの右ボタンと同様にMicrosoft Officeアプリケーション内でポップアップメニューを表示させるために使用します。また、他のアプリケーションソフトウェアで別の機能を実行することもできます
⑧	矢印キー	文書ファイルやワークシート、またはWebサイト内を移動するときに使用します。マウスを使わずにキーボードのキーを押すことによって、画面内で上下左右に移動できます
⑨	編集キー	[Insert]、[Home]、[Page Up]、[Delete]、[End]および[Page Down]の各キーがあります
⑩	ステータス ランプ	コンピュータおよびキーボード設定のステータスを示します (Num Lock、Caps Lock、およびScroll Lock)



## Windowsロゴ キー

Windowsロゴ キーを他のキーと組み合わせて、Windowsオペレーティング システムで利用できるさまざまな機能を実行することができます。

<b>Windowsロゴ キー</b>	Windowsの[スタート]メニューを表示または非表示にします
<b>Windowsロゴ キー+[Break]</b>	[システムのプロパティ]ダイアログ ボックスを表示します
<b>Windowsロゴ キー+[F1]</b>	Windowsオペレーティング システムのヘルプ画面を表示します
<b>Windowsロゴ キー+[Tab]</b>	タスクバーのボタンを切り替えます
<b>Windowsロゴ キー+[E]</b>	エクスプローラの[マイ コンピュータ]を起動します
<b>Windowsロゴ キー+[F]</b>	ファイルやフォルダの検索を起動します
<b>Windowsロゴ キー+[Ctrl]+[F]</b>	ほかのコンピュータの検索を起動します
<b>Windowsロゴ キー+[M]</b>	開いているすべてのアプリケーションを最小化します
<b>Windowsロゴ キー+[Shift]+[M]</b>	最小化したすべてのアプリケーションを元に戻します
<b>Windowsロゴ キー+[R]</b>	[ファイル名を指定して実行]ダイアログ ボックスを表示します

## シリアル番号および製品識別番号の記載位置

dc7600 USの各コンピュータには、固有のシリアル番号および製品識別番号が貼付されています。これらの番号の記載位置については、下の図を参照してください。HPのサポート窓口へのお問い合わせの際には、これらの番号をお手元に用意しておいてください。



シリアル番号の記載位置

## 縦置きまたは横置きの選択

dc7600 USのコンピュータは、縦置きまたは横置きのどちらの構成でも使用できます。縦置きで使用する場合について詳しくは、[2-7ページの「縦置き用スタンドの取り付けと取り外し」](#)を参照してください。

コンピュータを横置きで使用する場合は、ゴムパッドが付いている面が底面になるように置いてください。



**注意：**コンピュータ本体の固定および十分な通気の確保や過熱の防止のため、また故障時に保証サービスを受けられるようにするため、**dc7600 US**を縦置きで使用する場合は、必ずスタンドを取り付けてください。十分な通気を確保するため、コンピュータの周囲10.2 cm以内に障害物がないようにしてください。

---

## ハードウェアのアップグレード

### アクセス パネルの取り外しと取り付け



**警告：**感電や火傷の危険がありますので、電源コードがACコンセントから抜き取ってあること、および本体内部の温度が下がっていることを確認してください。

---



**警告：**感電や火災が発生したり、装置を損傷したりする場合がありますので、電話回線のモジュラ ジャックを本体のリア パネルのネットワーク コネクタ (NIC) に接続しないでください。

---



**注意：**静電気の放電により、コンピュータやオプションの電子部品が破損することがあります。以下の手順を始める前に、アースされた金属面に触れるなどして、身体にたまった静電気を放電してください。詳しくは、「[付録D 静電気対策](#)」を参照してください。

---



**注意：**コンピュータがACコンセントに接続されていると、電源が入っていてもシステム ボードには常に電気が流れています。感電やシステムの損傷を防ぐため、コンピュータのカバーを開ける場合は、電源を切るだけでなく、必ず事前に電源コードをコンセントから抜いてください。

---

システム メモリ、拡張スロット アセンブリ、およびバッテリーにアクセスするには、アクセス パネルを以下の手順で取り外す必要があります。

1. スマート カバー センサ機能が搭載されたモデルでセンサが有効になっている場合は、コンピュータを再起動し、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して無効にします。
2. オペレーティング システムを適切な手順でシャットダウンし、コンピュータと外付けデバイスの電源をすべて切ります。
3. 電源コードをACコンセントおよびコンピュータから抜き、すべての外付けデバイスとの接続を外します。



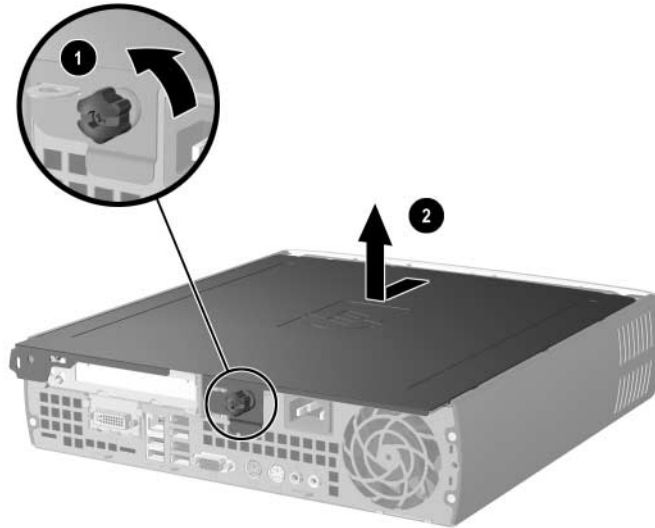
アクセス パネルをオプションのセキュリティ ケーブル ロックで固定すると、システム メモリ、内蔵ハードディスク ドライブ、マルチベイ固定つまみなどの内部コンポーネントへのアクセスを防ぐことができます。また、セキュリティ ケーブル ロックを使用すると、コンピュータを固定物に接続することもできます。

セキュリティ デバイスの取り付けと取り外しについては、「[付録C セキュリティ](#)」を参照してください。

---

4. オプションのセキュリティ ケーブル ロックが取り付けられている場合は、取り外します。
5. ゴム パッドが付いている面を下にして、コンピュータを横置きにします (コンピュータを縦置きで使用している場合は、まずスタンドを取り外します。詳しくは、[2-7ページの「縦置き用スタンドの取り付けと取り外し」](#)を参照してください)。

6. コンピュータの背面にあるネジを緩め①、アクセス パネルをコンピュータの背面の方向にスライドさせ②、引き上げて取り外します。



#### アクセス パネルの取り外し

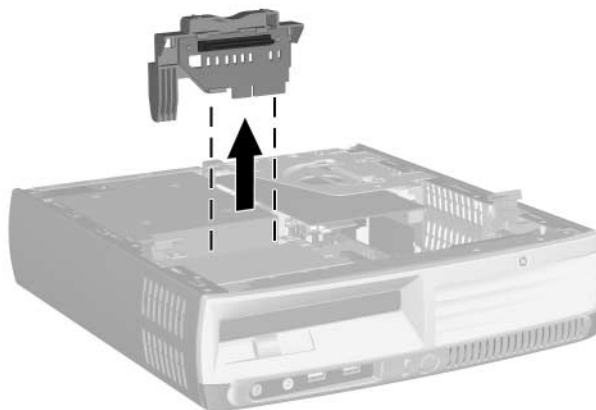
アクセス パネルを取り付けなおすには、以下の手順で操作します。

1. パネルの位置が合っていることを確認してからコンピュータの前面の方向にスライドさせ、ネジを締めて固定します。
2. 必要に応じて、オプションのセキュリティ ケーブル ロックを取り付けます。
3. 必要に応じて、スタンドを取り付けなおします。
4. すべての外付けデバイスを取り付け、電源コードをコンセントに差し込んで、コンピュータの電源を入れます。
5. スマート カバー センサ機能を搭載したモデルをお使いの場合は、必要に応じて、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して、スマート カバー センサを有効にします。

## フロント パネルおよびマルチベイの取り外しと取り付け

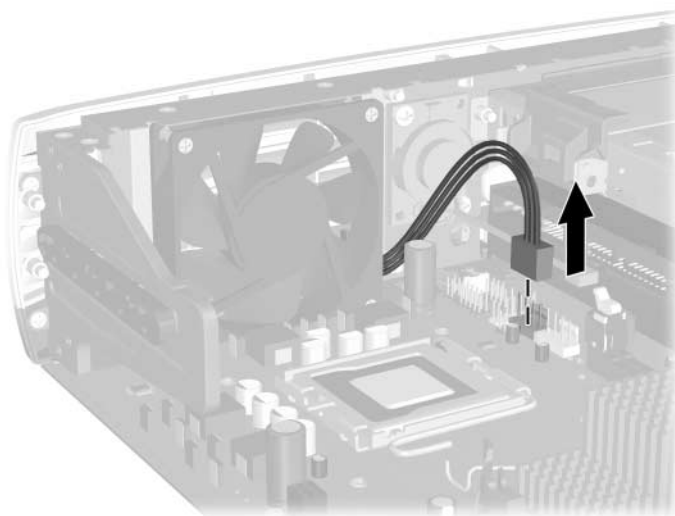
内蔵ハードディスク ドライブにアクセスするには、フロント パネルおよびマルチベイを以下の手順で取り外す必要があります。

1. スマート カバー センサ機能が搭載されたモデルでセンサが有効になっている場合は、コンピュータを再起動し、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して無効にします。
2. オペレーティング システムを適切な手順でシャットダウンし、コンピュータと外付けデバイスの電源をすべて切ります。
3. 電源コードをACコンセントおよびコンピュータから抜き、すべての外付けデバイスとの接続を外します。
4. ゴムパッドが付いている面を下にして、コンピュータを横置きにします (コンピュータを縦置きで使用している場合は、スタンドからコンピュータを取り外します。詳しくは、[2-7ページの「縦置き用スタンドの取り付けと取り外し」](#)を参照してください)。
5. アクセス パネルを取り外します。詳しくは、[2-1ページの「アクセス パネルの取り外しと取り付け」](#)を参照してください。
6. マルチベイからドライブを取り外します。詳しくは、[2-34ページの「マルチベイからのドライブの取り外し」](#)を参照してください。
7. マルチベイのドータ カードをコンピュータからまっすぐ上に引き出して、取り外します。



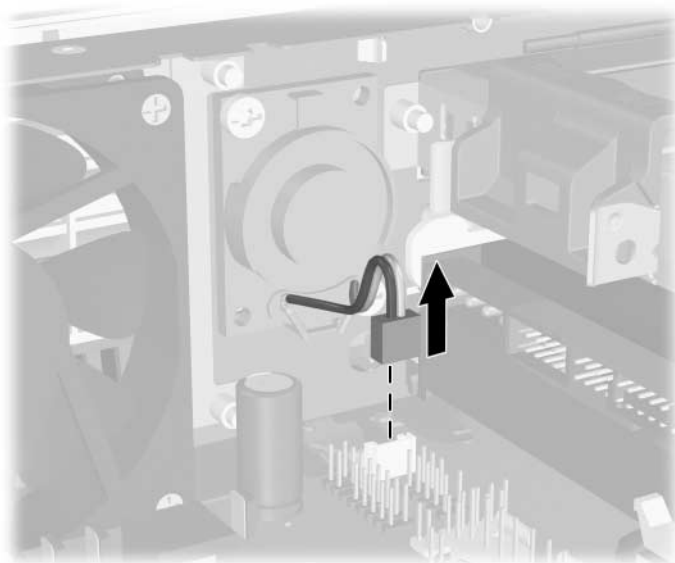
マルチベイのドータ カードの取り外し

8. ファン ケーブルを取り外します。



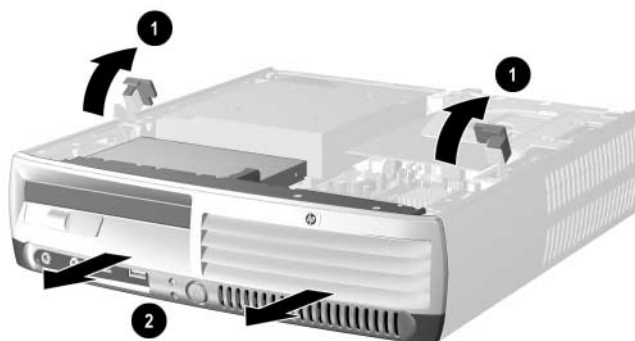
ファン ケーブルの取り外し

9. スピーカ ケーブルを取り外します。



スピーカ ケーブルの取り外し

10. コンピュータのシャーシの両側のレバーをコンピュータの背面に向けて引き上げ①、フロント パネルおよび取り付けられたマルチベイを前に引き出し、コンピュータから取り外します②。



#### フロント パネルおよびマルチベイの取り外し

フロント パネルおよびマルチベイを取り付けなおすには、以下の手順で操作します。

1. フロント パネルおよびマルチベイの位置が合っていることを確認してから、アセンブリをコンピュータの背面の方向にしっかり固定されるまでスライドさせます。これでコンピュータのシャーシの両側のラッチが元の位置に戻ります。
2. スピーカ ケーブルを接続しなおします。
3. ファン ケーブルを接続しなおします。
4. マルチベイのドータ カードを慎重にコネクタ スロットの位置に合わせ、しっかりと押し込んで所定の位置に取り付けなおします。
5. マルチベイ ドライブを取り付けなおします。詳しくは、[2-35ページの「マルチベイへのドライブの挿入」](#)を参照してください。
6. アクセス パネルを取り付けなおします。
7. 必要に応じて、スタンドを取り付けなおします。
8. すべての外付けデバイスを取り付け、電源コードをコンセントに差し込んで、コンピュータの電源を入れます。
9. スマート カバー センサ機能を搭載したモデルをお使いの場合は、必要に応じて、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して、スマート カバー センサを有効にします。



## 縦置き用スタンドの取り付けと取り外し

dc7600 USのコンピュータを縦置きで使用するには、以下の手順で操作します。

1. すべてのソフトウェア アプリケーションを終了し、オペレーティング システム ソフトウェアをシャットダウンして、コンピュータとすべての外付けデバイスの電源を切り、電源コードをACコンセントから抜きます。
2. マルチベイおよびファンが下側、PCI 拡張スロットが上側になるようにコンピュータを縦置きに回転させます。



コンピュータの縦置きへの回転

3. 縦置き用スタンドの前面のフックがコンピュータ底面の通気孔にはまるように、コンピュータをスタンドの上に下ろし、フックがかみ合うまでコンピュータを後方にスライドさせます❶。
4. ネジを締めて、コンピュータをスタンドに固定します❷。これによりコンピュータが安定し、内部の部品に十分に空気を通すことができます。

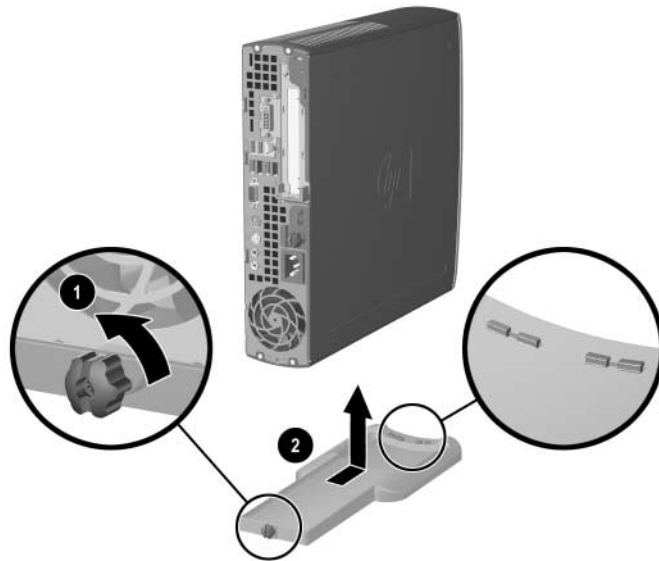


コンピュータへのスタンドの取り付け

5. すべての外付けデバイスを取り付け、電源コードをコンセントに差し込んで、コンピュータの電源を入れます。

コンピュータからスタンドを取り外すには、以下の手順で操作します。

1. すべてのソフトウェア アプリケーションを終了し、オペレーティング システム ソフトウェアをシャットダウンして、コンピュータとすべての外付けデバイスの電源を切り、電源コードをACコンセントから抜きます。
2. コンピュータをスタンドに固定しているネジを緩めます①。
3. コンピュータを縦置き用スタンドの前面のフックから外れるまで前方にスライドさせ、コンピュータを持ち上げて、スタンドから取り外します②。



コンピュータからのスタンドの取り外し

4. ゴムパッドが付いている面を下にして、コンピュータを横置きにします。



コンピュータの横置きへの回転

5. すべての外付けデバイスを取り付け、電源コードをコンセントに差し込んで、コンピュータの電源を入れます。

## メモリの増設

お使いのコンピュータは、ダブルデータ レート2シンクロナスDRAM (DDR2-SDRAM) デュアル インライン メモリ モジュール (DIMM) を装備しています。

### DIMM

システム ボード上にあるメモリ ソケットには、業界標準のDIMMを3つまで取り付けることができます。これらのメモリ ソケットには、少なくとも1つのDIMMが標準装備されています。最大容量のメモリ構成にするために、高性能デュアル チャネル モードでコンフィギュレーションされたメモリを4 GBまで増設できます。

### DDR2-SDRAM DIMM

システムを正常に動作させるためには、必ず以下の条件を満たすDIMMを使用してください。



以下に記載された条件を満たすメモリ モジュールでも、HP純正品でない場合は、動作保証はできません。

- 業界標準の240ピン
- アンバッファードPC2-4200 533 MHz
- 1.8ボルトDDR2-SDRAM DIMM

DDR2-SDRAM DIMMは、以下の条件も満たしている必要があります。

- 533 MHzのDDR2-SDRAM DIMMではCASレイテンシが4.0 (CL=4.0) の動作をサポートしている
- JEDEC (Joint Electronic Device Engineering Council) のDDR2 DIMMの仕様に準拠している

さらに、お使いのシステムでは以下の機能やデバイスがサポートされます。

- 256メガビット、512メガビット、および1ギガビットの非ECCメモリ テクノロジ
- 片面および両面DIMM

- ×8および×16 DDRデバイスで構成されたDIMM。×4 SDRAMで構成されたDIMMはサポートされない



サポートされないDIMMが取り付けられている場合、システムは起動しません。

特定のコンピュータのプロセッサ バス周波数を判断する方法については、Documentation and Diagnostics CDに収録されている『コンピュータセットアップ (F10) ユーティリティ ガイド』を参照してください。

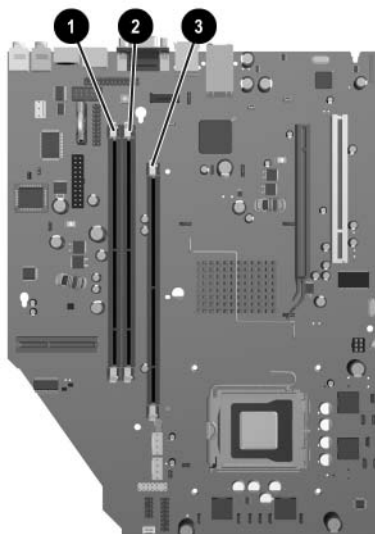
## DIMMソケット

取り付けられているDIMMに応じて、システムは自動的にシングル チャネルモード、デュアル チャネルの非対称モード、またはより高性能なデュアルチャネルのインタリーブ モードで動作します。

- 1つのチャネルのDIMM ソケットにのみDIMM が取り付けられている場合、システムはシングル チャネル モードで動作します。
- チャネルAのDIMMの合計メモリ容量とチャネルBのDIMMの合計メモリ容量が同じでない場合、システムはデュアル チャネルの非対称モードで動作します。
- チャネルAのDIMMの合計メモリ容量とチャネルBのDIMMの合計メモリ容量が同じ場合、システムはより高性能なデュアル チャネルのインタリーブ モードで動作します。両方のチャネルで、取り付けるDIMMの性能やデバイス自体の幅が異なっても構いません。たとえば、チャネルAに256 MBのDIMMが2つ、チャネルBに512 MBのDIMMが1つ取り付けられている場合、システムはインタリーブ モードで動作します。

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して、お使いのコンピュータの動作モードを確認できます。ユーティリティの使い方については、Documentation and Diagnostics CDに収録されている『コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ ガイド』を参照してください。

システム ボードには3つのDIMMソケットがあり、1つのソケットがメモリ チャンネルAに、2つのソケットがメモリ チャンネルBにあります。ソケットには、XMM1、XMM3、およびXMM4の番号が付けられています。XMM1ソケットはメモリ チャンネルAで動作し、XMM3およびXMM4ソケットはメモリ チャンネルBで動作します。



DIMMソケットの位置

番号	説明	ソケットの色
❶	DIMMソケットXMM3、チャンネルB	黒
❷	DIMMソケットXMM4、チャンネルB	白
❸	DIMMソケットXMM1、チャンネルA	黒

## メモリ モジュールの取り付けまたは取り外し

---



**注意：**お使いのメモリ モジュール ソケットの接点には、金メッキが施されています。メモリをアップグレードする際に、接点の金属が異なるときに生じる酸化や腐食を防ぐため、メモリモジュールは金メッキのものを使用してください。

---



**注意：**静電気の放電により、コンピュータが破損することがあります。以下の手順を始める前に、アースされた金属面に触れるなどして、身体にたまった静電気を放電してください。詳しくは、「[付録D 静電気対策](#)」を参照してください。

---



**注意：**モジュールの破損を防止するため、メモリ モジュールを取り扱う際は、金属製の接点に触れないでください。

---

1. スマート カバー センサ機能が搭載されたモデルでセンサが有効になっている場合は、コンピュータを再起動し、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して無効にします。
  2. オペレーティング システムを適切な手順でシャットダウンし、コンピュータと外付けデバイスの電源をすべて切ります。
  3. 電源コードをACコンセントおよびコンピュータから抜き、すべての外付けデバイスとの接続を外します。
  4. ゴム パッドが付いている面を下にして、コンピュータを横置きにします (コンピュータを縦置きで使用している場合は、スタンドからコンピュータを取り外します。詳しくは、[2-7ページ](#)の「[縦置き用スタンドの取り付けと取り外し](#)」を参照してください)。
  5. アクセス パネルを取り外します。詳しくは、[2-1ページ](#)の「[アクセス パネルの取り外しと取り付け](#)」を参照してください。
  6. システム ボード上のメモリ モジュール ソケットの位置を確認します。
- 

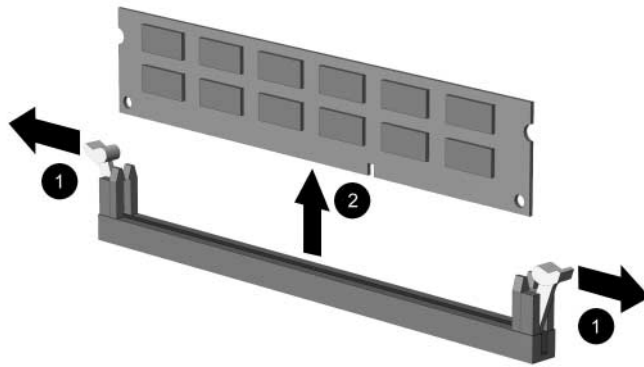


**警告：**火傷の危険がありますので、必ず、本体内部の温度が十分に下がっていることを確認してから、次の手順に進んでください。

---



7. メモリ モジュールを取り外すには、以下の手順で操作します。
  - a. DIMM ソケットの両方のラッチを同時に外側に押します**①**。これでモジュールが解放され、ソケットから少し押し出されます。
  - b. モジュールをソケットから持ち上げます**②**。

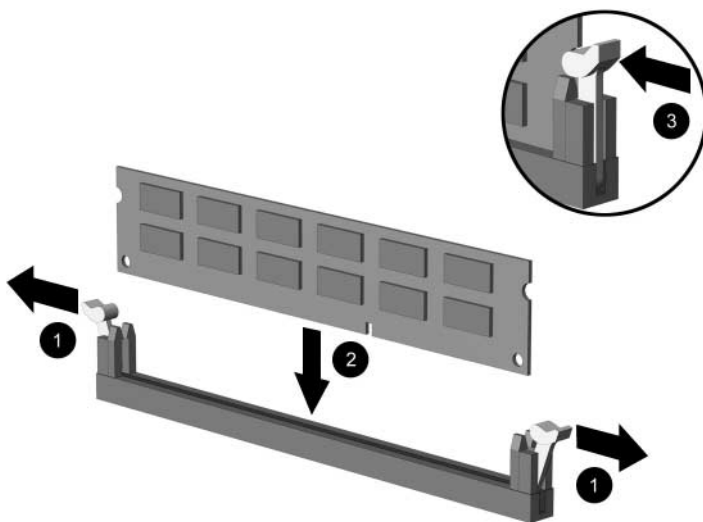


メモリ モジュールの取り外し



システムに取り付けるメモリ モジュールが1つだけの場合は、必ず標準装備のメモリ モジュールが取り付けられていたソケットに取り付けてください。

8. メモリ モジュールを取り付けるには、以下の手順で操作します。
  - a. DIMMソケットの両側にあるラッチ①を外側に押します。
  - b. メモリ モジュールのノッチ（切り込み）をソケットのタブに合わせます。モジュールをソケットにまっすぐしっかりと押し込み②、完全に挿入されて正しい位置に固定されていることを確認します。モジュールが正しい位置に収まると、ラッチが自動的に閉まり、モジュールはスロットに固定されます③。



メモリ モジュールの取り付け



メモリ モジュールは一方方向にしか取り付けられません。メモリ モジュールのノッチをソケットのタブに合わせてください。



最適なパフォーマンスが得られるようにするには、チャネルAのメモリ容量とチャネルBの合計メモリ容量が同じになるように、ソケットにメモリ モジュールを取り付けます。たとえば、XMM1ソケット（チャネルA）に標準装備のDIMMが1つ取り付けられているときに2つ目のDIMMを増設する場合は、2つ目のDIMMを同じメモリ容量にすることをおすすめします。

9. アクセス パネルを取り付けなおします。
10. 必要に応じて、スタンドを取り付けなおします。
11. すべての外付けデバイスを取り付け、電源コードをコンセントに差し込んで、コンピュータの電源を入れます。  
コンピュータの電源を入れたときに、増設メモリが自動的に認識されます。
12. スマート カバー センサ機能を搭載したモデルをお使いの場合は、必要に応じて、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して、スマート カバー センサを有効にします。

## 拡張カードの増設または取り外し

お使いのコンピュータには、高さ10.7 cmおよび長さ16.8 cmまでの拡張カードを取り付けることができる、フルハイトで1/2の長さのPCI拡張スロットが1基装備されています。PCIカードには以下のようにさまざまな種類があります。

- 無線LANカード
- IEEE 1394カード
- モデム カード
- NICカード
- グラフィックス カード



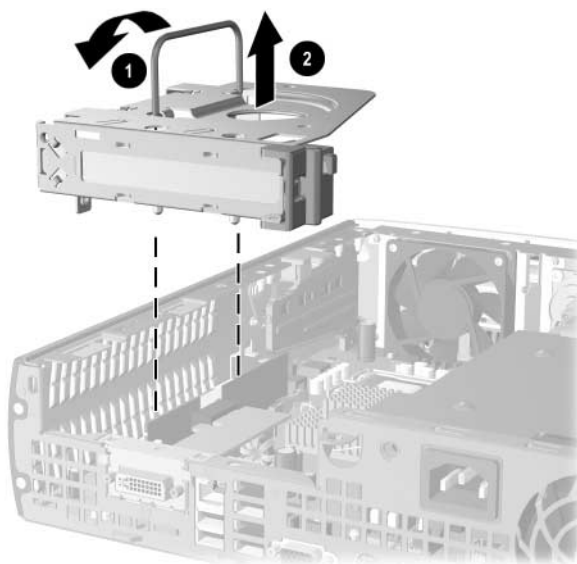
グラフィックス カードを追加すると、デフォルトでは、システム ボードの統合グラフィックスが無効になります。統合グラフィックスは、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでBIOS設定を変更することにより再び有効にできます。



USモデルのシリアル/パラレル入出力アセンブリ (オプション) は拡張スロット カバーに置き換わるもので、システム ボードに直接接続します。

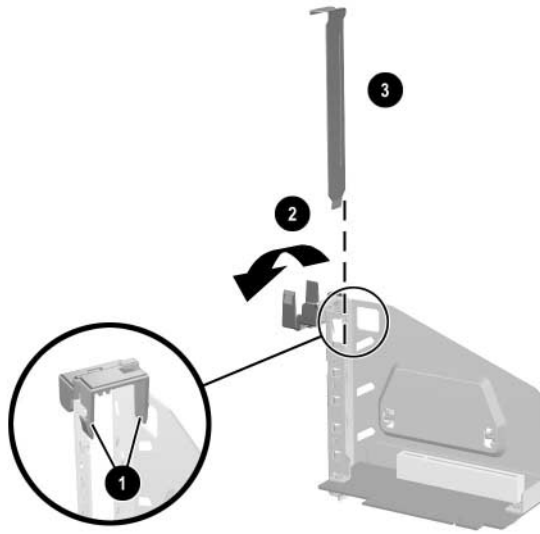
## 拡張カードの取り付け

1. スマート カバー センサ機能が搭載されたモデルでセンサが有効になっている場合は、コンピュータを再起動し、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して無効にします。
2. オペレーティング システムを適切な手順でシャットダウンし、コンピュータと外付けデバイスの電源をすべて切ります。
3. 電源コードをACコンセントおよびコンピュータから抜き、すべての外付けデバイスとの接続を外します。
4. ゴム パッドが付いている面を下にして、コンピュータを横置きにします (コンピュータを縦置きで使用している場合は、スタンドからコンピュータを取り外します。詳しくは、[2-7ページの「縦置き用スタンドの取り付けと取り外し」](#)を参照してください)。
5. アクセス パネルを取り外します (詳しくは、[2-1ページの「アクセス パネルの取り外しと取り付け」](#)を参照してください)。
6. 拡張カード アセンブリのハンドルを持ち上げ①、アセンブリをまっすぐ上に引き出して②、コンピュータから取り外します。



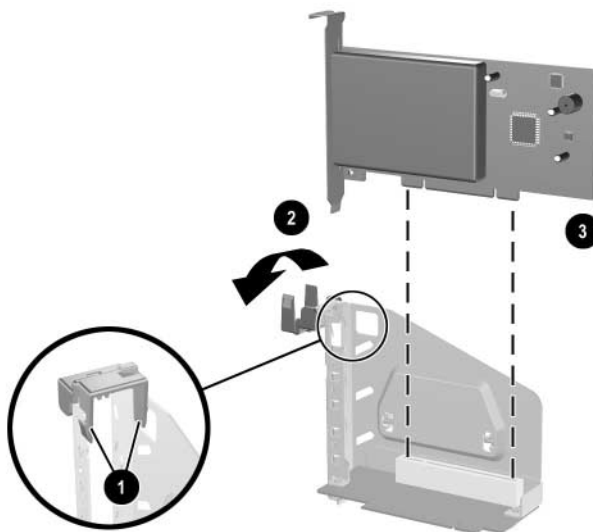
拡張カード アセンブリの取り外し

7. 拡張スロット カバーを新しいライザ カード付き拡張カード アセンブリから取り外すには、以下の手順で操作します。
  - a. ラッチが開いていない場合は、ラッチの両側①を一緒につかんで解放します。
  - b. ラッチを開きます②。
  - c. 拡張カード スロット カバーをまっすぐ上に引き出して、拡張カード アセンブリから取り出します③。



拡張カード スロット カバーの取り外し

8. 拡張カードを取り付けるには、以下の手順で操作します。
  - a. ラッチが開いていない場合は、ラッチの両側①を一緒につかんで解放します。
  - b. ラッチを開きます②。
  - c. 拡張カードをスライドさせ、拡張カード スロットに正しく固定されるまでしっかりと差し込みます③。



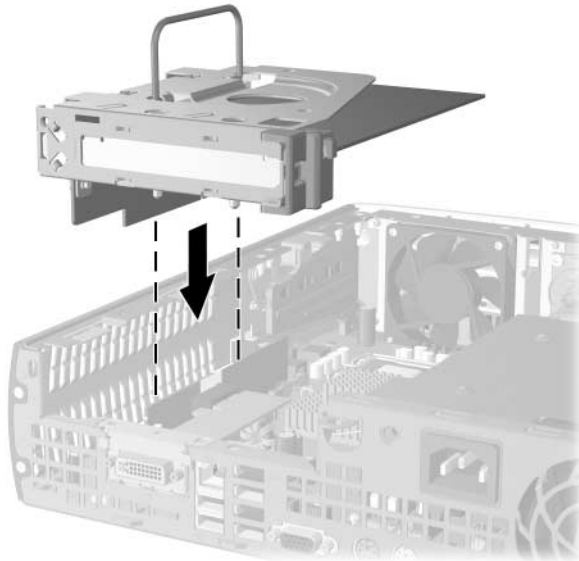
#### 拡張カードの取り付け



拡張カードを取り付ける際には、カードのコネクタ全体が拡張カード ソケットに正しく固定されるようにしっかりと押し込んでください。

9. 拡張カード固定ラッチを閉じ、カチッと音がして固定されたことを確認します。

10. 拡張カード アセンブリのタブをコンピュータのシャーシのスロットの位置に合わせ、アセンブリを所定の位置にしっかりと押し込みます。

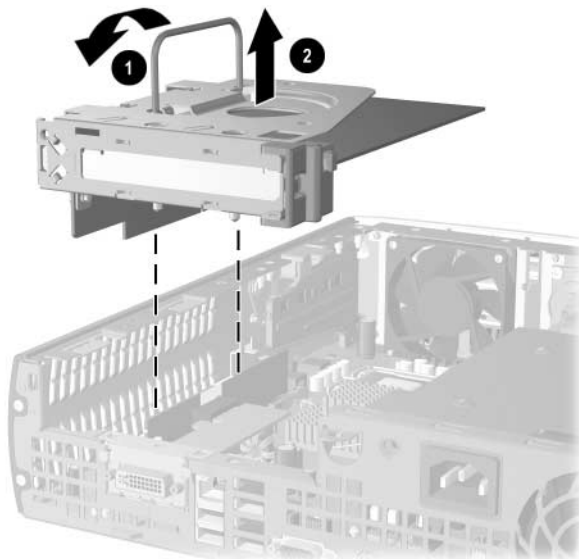


#### 拡張カード アセンブリの取り付け

11. 必要に応じて、取り付けしたカードに外部ケーブルを接続します。また、必要に応じて、システム ボードに内部ケーブルを接続します。カードにオーディオ機能が備わっている場合は、オーディオ ケーブルを、システム ボード上の「Aux」と書かれている（電源供給装置のケージの下にある）コネクタに接続します。
12. アクセス パネルを取り付けなおします。
13. 必要に応じて、オプションのセキュリティ ケーブル ロックを取り付けます。
14. 必要に応じて、スタンドを取り付けなおします。
15. すべての外付けデバイスを取り付け、電源コードをコンセントに差し込んで、コンピュータの電源を入れます。
16. スマート カバー センサ機能を搭載したモデルをお使いの場合は、必要に応じて、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して、スマート カバー センサを有効にします。

## 拡張カードの取り外し

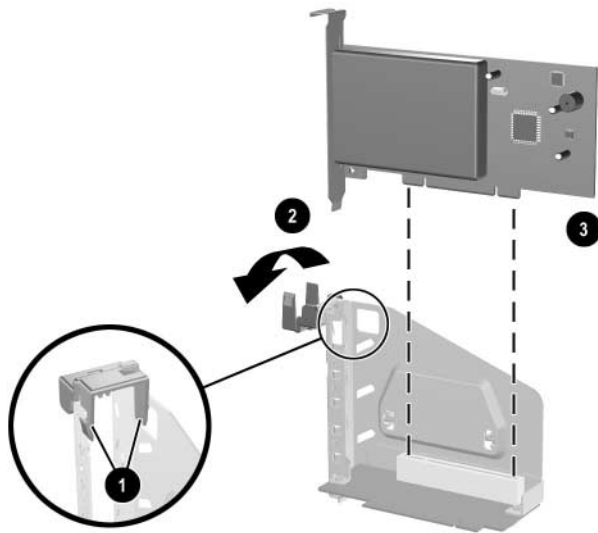
1. スマート カバー センサ機能が搭載されたモデルでセンサが有効になっている場合は、コンピュータを再起動し、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して無効にします。
2. オペレーティング システムを適切な手順でシャットダウンし、コンピュータと外付けデバイスの電源をすべて切ります。
3. 電源コードをACコンセントおよびコンピュータから抜き、すべての外付けデバイスとの接続を外します。
4. ゴム パッドが付いている面を下にして、コンピュータを横置きにします (コンピュータを縦置きで使用している場合は、スタンドからコンピュータを取り外します。詳しくは、[2-7ページの「縦置き用スタンドの取り付けと取り外し」](#)を参照してください)。
5. アクセス パネルを取り外します (詳しくは、[2-1ページの「アクセス パネルの取り外しと取り付け」](#)を参照してください)。
6. 拡張カード アセンブリのハンドルを持ち上げ①、アセンブリをまっすぐ上に引き出して②、コンピュータから取り外します。



拡張カード アセンブリの取り外し



7. 拡張カードを取り外すには、以下の手順で操作します。
  - a. ラッチが開いていない場合は、ラッチの両側①を一緒につかんで解放します。
  - b. ラッチを開きます②。
  - c. カードの両端を持ち、コネクタがソケットから外れるまで、カードを前後に慎重に揺さぶります。
  - d. 拡張カードをソケットからまっすぐ上に引き出します③。このとき、カードが拡張カード アセンブリと接触して傷が付かないようにしてください。



拡張カードの取り外し

8. カードを静電気の影響を受けない容器に保管します。
9. 新しい拡張カードを取り付けない場合は、拡張スロット カバーを取り付けて、開いているスロットを閉じます。



**注意：**拡張カードを取り外したら、コンピュータ内部の温度が上がりすぎないようにするために、新しいカードと交換するか、空いたスロットを金属製のスロット カバーなどでふさいでください。

10. アクセス パネルを取り付けなおします。
11. 必要に応じて、オプションのセキュリティ ケーブル ロックを取り付けます。

12. 必要に応じて、スタンドを取り付けなおします。
13. すべての外付けデバイスを取り付け、電源コードをコンセントに差し込んで、コンピュータの電源を入れます。
14. スマート カバー センサ機能を搭載したモデルをお使いの場合は、必要に応じて、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して、スマート カバー センサを有効にします。

## ハードディスク ドライブのアップグレード

---



**注意：**データの損失およびコンピュータまたはドライブの破損を防ぐために、次の点に注意してください。

- ハードディスク ドライブを取り外すときは、必ず事前にドライブ内の個人ファイルをCD-Rなどの外部記憶装置にバックアップしておいてください。元のドライブが破損したり元のドライブからデータが失われたりした場合、バックアップがないと個人のファイルも失われてしまいます。また、メインハードディスク ドライブを交換した後はRestore Plus! CDを使用して、工場出荷時のファイルを読み込む必要があります。
  - ハードディスク ドライブの着脱は、必ず、すべてのアプリケーションおよびオペレーティング システムを終了し、コンピュータの電源を切ってから行ってください。コンピュータの電源が入っている場合またはスタンバイ モードになっている場合は、絶対にハードディスク ドライブを取り外さないでください。
  - ドライブを取り扱う前に、身体にたまった静電気を放電してください。ドライブを持つ際は、コネクタに手を触れないようにしてください。静電気対策について詳しくは、「[付録D 静電気対策](#)」を参照してください。
  - ドライブは慎重に取り扱い、絶対に落とさないでください。
  - ドライブを挿入するときは、無理な力を加えないでください。
  - ハードディスク ドライブは、液体や高温にさらさないようにしてください。また、モニターやスピーカなどの磁気を発生する装置から遠ざけてください。
  - ドライブを郵送するときは、発泡ビニール シートなどの緩衝材で適切に梱包し、梱包箱の表面に「コワレモノー取り扱い注意」と明記してください。
-



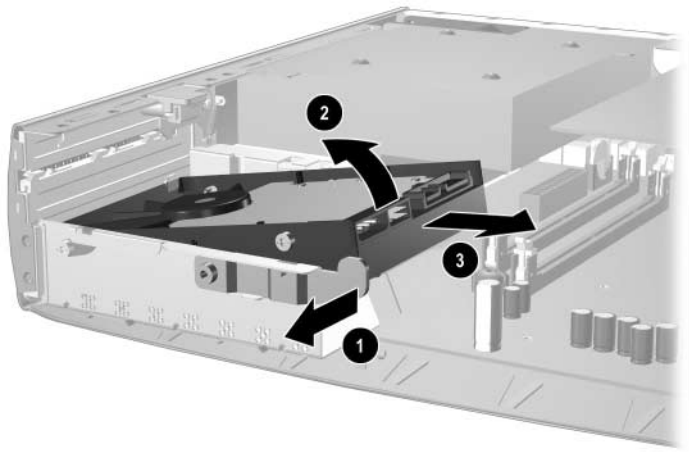
dc7600 USはシリアルATA (SATA) 内蔵ハードディスク ドライブのみをサポートしています。パラレルATA (PATA) 内蔵ハードディスク ドライブはサポートしていません。

新しいハードディスク ドライブにデータを移動できるように、ハードディスク ドライブを取り外す前にドライブ内のデータをバックアップしてください。

3.5 インチ ハードディスク ドライブは、コンピュータの左側のマルチベイの下にあります。

1. スマート カバー センサ機能が搭載されたモデルでセンサが有効になっている場合は、コンピュータを再起動し、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して無効にします。
2. オペレーティング システムを適切な手順でシャットダウンし、コンピュータと外付けデバイスの電源をすべて切ります。
3. 電源コードをACコンセントおよびコンピュータから抜き、すべての外付けデバイスとの接続を外します。
4. ゴム パッドが付いている面を下にして、コンピュータを横置きにします (コンピュータを縦置きで使用している場合は、スタンドからコンピュータを取り外します。詳しくは、[2-7 ページの「縦置き用スタンドの取り付けと取り外し」](#)を参照してください)。
5. アクセス パネルを取り外します。詳しくは、[2-1 ページの「アクセス パネルの取り外しと取り付け」](#)を参照してください。
6. フロント パネルおよびマルチベイを取り外します。詳しくは、[2-4 ページの「フロント パネルおよびマルチベイの取り外しと取り付け」](#)を参照してください。

7. ハードディスク ドライブのラッチをコンピュータの前面の方向に向けて引っ張ります**①**。
8. ハードディスク ドライブの右側を止まるまで持ち上げ**②**、右側にドライブを引き出します**③**。

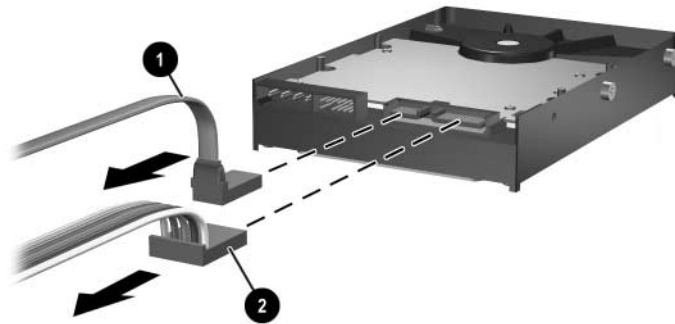


内蔵ハードディスク ドライブの取り外し



ケーブルを取り外す際は、ケーブルの損傷を防ぐために、ケーブルではなくコネクタを持って引き抜くようにしてください。

9. データ ケーブル①のコネクタをハードディスク ドライブのソケットから引き抜き、ケーブルをハードディスク ドライブから取り外します。
10. データ ケーブルのもう一方の端をシステム ボードから取り外します。
11. 電源ケーブル②のコネクタをハードディスク ドライブのソケットから引き抜き、ケーブルをハードディスク ドライブから取り外します。



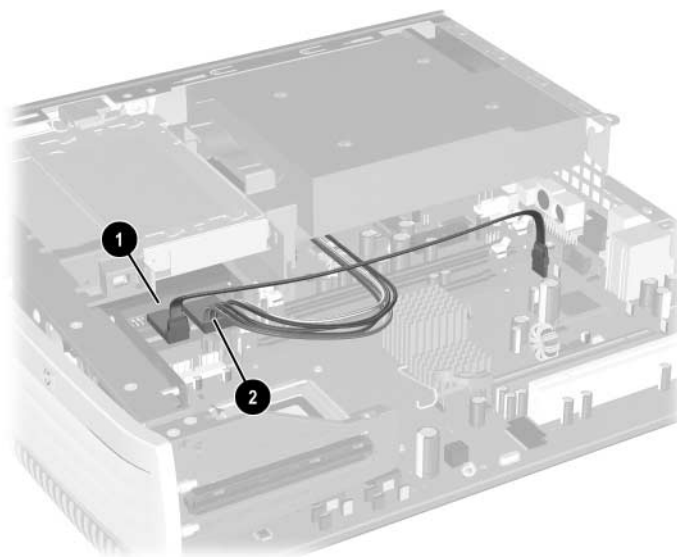
ハードディスク ドライブからのデータ ケーブルおよび電源ケーブルの取り外し

12. 元のドライブの4本のネジを新しいドライブに取り付けます。このネジがドライブの位置を決める役割を果たします。



ネジを移動する際には、元のドライブのネジの位置に十分注意します。ネジは新しいドライブの同じ位置に移動する必要があります。

13. データ ケーブルをシステム ボードのデータ コネクタに接続します。
14. データ ケーブル①と電源ケーブル②を新しいハードディスク ドライブに接続します。



データ ケーブル コネクタ①と電源ケーブル コネクタ②の位置

15. ハードディスク ドライブの左側をゆっくり位置に合わせ、ドライブの右側を押し下げてロックします。
16. フロント パネルおよびマルチベイ アセンブリを取り付けなおします。
17. アクセス パネルを取り付けなおします。
18. 必要に応じて、スタンドを取り付けなおします。
19. すべての外付けデバイスを取り付け、電源コードをコンセントに差し込んで、コンピュータの電源を入れます。
20. スマート カバー センサ機能を搭載したモデルをお使いの場合は、必要に応じて、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して、スマート カバー センサを有効にします。



SATA ハードディスク ドライブのコンフィギュレーションは必要ありません。次回コンピュータの電源を入れたときに、ハードディスク ドライブが自動的に認識されます。

---



ハードディスク ドライブを交換した後でRestore Plus! CDを挿入して、オペレーティング システムとソフトウェア ドライバ、およびコンピュータにプリインストールされていたすべてのソフトウェア アプリケーションを復元します。手順については、Restore Plus! CDに付属のガイドを参照してください。復元処理が完了したら、ハードディスク ドライブを交換する前にバックアップしておいた個人用のファイルを、コンピュータにコピーしなおします。

## マルチベイの使い方

マルチベイは、以下のような12.7 mm リムーバブル ドライブ（オプション）を取り付けることができる特別なドライブ ベイです。

- マルチベイ用1.44-MBディスク ドライブ\*
- マルチベイ用CD-ROMドライブ\*
- マルチベイ用CD-RWドライブ
- マルチベイ用DVD-ROMドライブ
- マルチベイ用CD-RW/DVD-ROMコンボ ドライブ
- マルチベイ用SMARTハードディスク ドライブ

\*ホットプラグおよびホットスワップ可能



**注意：**データの損失やコンピュータまたはドライブの破損を防ぐために、次の点に注意してください。

- ドライブを取り扱う前に、身体にたまった静電気を放電してください。ドライブを持つ際は、コネクタに手を触れないようにしてください。
- ハードディスク ドライブ以外の各種ドライブの運搬、輸送、保管、または取り外しの際は、ディスク、CD-ROM、DVD-ROMなどのメディアが取り出され、メディア トレイが閉じていることを確認してください。
- ドライブは慎重に取り扱ってください。ドライブを挿入するときに無理な力を加えたり、ドライブを落としたり、カバーの上部を押したりしないでください。
- ハードディスク ドライブは、液体や高温にさらさないようにしてください。また、モニターやスピーカなどの磁気を発生する装置から遠ざけてください。
- ドライブを郵送するときは、発泡ビニールシートなどの緩衝材で適切に梱包し、梱包箱の表面に「コワレモノー取り扱い注意」と明記してください。

---

## マルチベイ ドライブの「ホットプラグ」または「ホットスワップ」



**注意：**ハードディスク ドライブを着脱する場合は、コンピュータ、ドライブ、およびドライブに保存されたデータの損傷を防ぐために、必ずコンピュータの電源を切ってから行ってください。コンピュータの電源が入っている場合またはスタンバイ モードになっている場合は、絶対にハードディスク ドライブを取り外さないでください。コンピュータがスタンバイ モードになっていないことを確認するには、コンピュータの電源を入れてからシャットダウンします。

HPから提供され、プリインストールされているオペレーティング システムを実行している場合は、コンピュータの電源がオン、オフ、またはスタンバイ状態のときに、ディスク ドライブまたはCD-ROMドライブを着脱できます。





**注意:** コンピュータの電源が入っているときにオプティカル ドライブを取り付けた場合は、コンピュータを再起動して、録音用や録画用、バックアップ用、またはビデオ再生用のソフトウェア アプリケーションを使用したときにオプティカル ドライブが正しく機能することを確認してください。

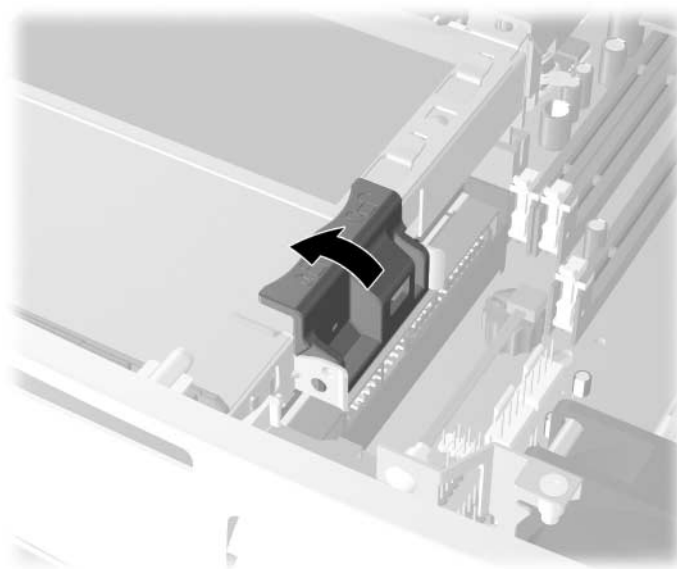
## マルチベイ固定つまみのロックおよび解放

マルチベイ固定つまみがロックされている場合は、マルチベイに取り付けられているドライブを取り外せないようにするために、マルチベイ イジェクトレバーが使用できなくなります。

ドライブをマルチベイに固定するには、以下の手順で操作します。

1. スマート カバー センサ機能が搭載されたモデルでセンサが有効になっている場合は、コンピュータを再起動し、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して無効にします。
2. オペレーティング システムを適切な手順でシャットダウンし、コンピュータと外付けデバイスの電源をすべて切ります。
3. 電源コードをACコンセントおよびコンピュータから抜き、すべての外付けデバイスとの接続を外します。
4. ゴム パッドが付いている面を下にして、コンピュータを横置きにします (コンピュータを縦置きで使用している場合は、スタンドからコンピュータを取り外します。詳しくは、[2-7ページの「縦置き用スタンドの取り付けと取り外し」](#)を参照してください)。
5. アクセス パネルを取り外します。詳しくは、[2-1ページの「アクセス パネルの取り外しと取り付け」](#)を参照してください。

- つまみがロックされるまで、コンピュータの左側面の方向に回転させます。



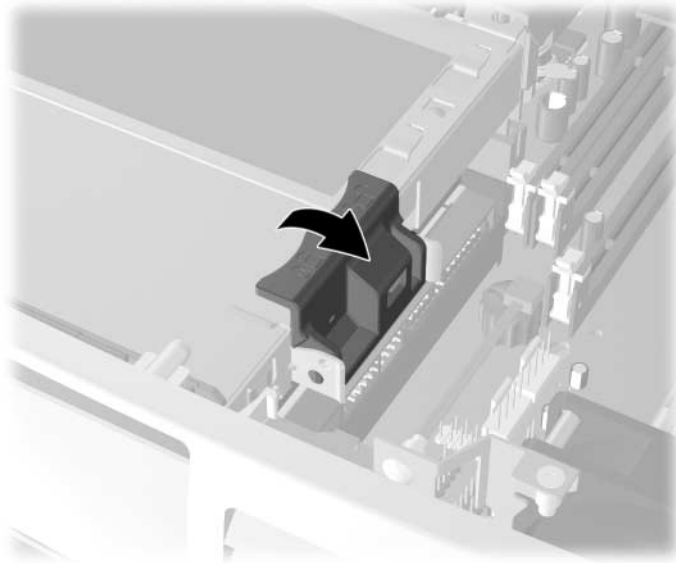
マルチベイ固定つまみのロック

- アクセス パネルを取り付けなおします。
- 必要に応じて、スタンドを取り付けなおします。
- すべての外付けデバイスを取り付け、電源コードをコンセントに差し込んで、コンピュータの電源を入れます。
- スマート カバー センサ機能を搭載したモデルをお使いの場合は、必要に応じて、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して、スマート カバー センサを有効にします。

マルチベイ固定つまみを解放するには、以下の手順で操作します。

- スマート カバー センサ機能が搭載されたモデルでセンサが有効になっている場合は、コンピュータを再起動し、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して無効にします。
- オペレーティング システムを適切な手順でシャットダウンし、コンピュータと外付けデバイスの電源をすべて切ります。
- 電源コードをACコンセントおよびコンピュータから抜き、すべての外付けデバイスとの接続を外します。

4. ゴムパッドが付いている面を下にして、コンピュータを横置きにします（コンピュータを縦置きで使用している場合は、スタンドからコンピュータを取り外します。詳しくは、[2-7ページの「縦置き用スタンドの取り付けと取り外し」](#)を参照してください）。
5. アクセスパネルを取り外します。詳しくは、[2-1ページの「アクセスパネルの取り外しと取り付け」](#)を参照してください。
6. つまみをコンピュータの右側の方向に回転させて解放します。

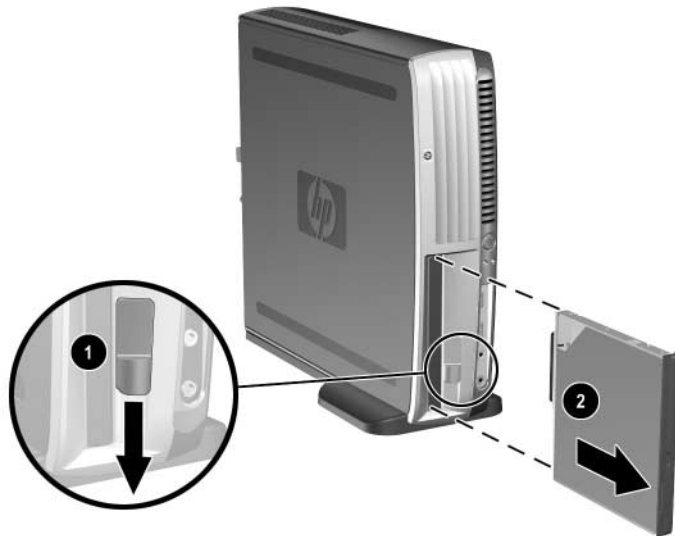


マルチベイ固定つまみの解放

7. アクセスパネルを取り付けなおします。
8. 必要に応じて、スタンドを取り付けなおします。
9. すべての外付けデバイスを取り付け、電源コードをコンセントに差し込んで、コンピュータの電源を入れます。
10. スマートカバーセンサ機能を搭載したモデルをお使いの場合は、必要に応じて、コンピュータセットアップ (F10) ユーティリティを使用して、スマートカバーセンサを有効にします。

## マルチベイからのドライブの取り外し

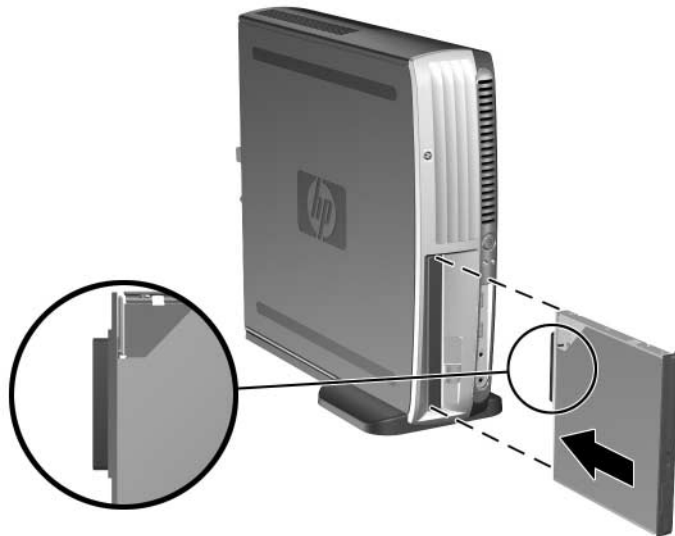
1. CDなどのすべてのリムーバブル メディアをドライブから取り出します。
2. オプティカル ドライブまたはディスク ドライブを取り外す前に、Windows タスクバーにある[ハードウェアの安全な取り外し]アイコンを使用してドライブを停止します。
3. CD-ROM ドライブやディスク ドライブのホットスワップを行わない場合は、すべてのソフトウェア アプリケーションを終了し、オペレーティング システム ソフトウェアをシャットダウンして、コンピュータの電源を切ります。
4. マルチベイ固定つまみがロックされている場合は解放します。詳しくは、[2-31 ページの「マルチベイ固定つまみのロックおよび解放」](#)を参照してください。
5. コンピュータが縦置きの場合はイジェクト レバーを下方向にスライドさせ❶、横置きの場合は左方向にスライドさせて、マルチベイからドライブを取り出します❷。



マルチベイからのドライブの取り外し（図は縦置きのUSモデルの場合）

## マルチベイへのドライブの挿入

1. CDなどのすべてのリムーバブルメディアをドライブから取り出します。
2. CD-ROMドライブやディスクドライブのホットスワップを行わない場合は、すべてのソフトウェアアプリケーションを終了し、オペレーティングシステムソフトウェアをシャットダウンして、コンピュータの電源を切ります。
3. コンピュータが縦置きの場合はドライブの上の面を左に向け、横置きの場合はドライブの上の面を上に向け、ドライブコネクタをコンピュータに向けてドライブをマルチベイに挿入し、電気コネクタが正しく接続されるようにしっかりと押し込みます。



### マルチベイへのドライブの挿入（図は縦置きのUSモデルの場合）

4. コンピュータの電源が入っているときにオプティカルドライブを取り付けた場合は、コンピュータを再起動して、録音用や録画用、バックアップ用、またはビデオ再生用のソフトウェアアプリケーションを使用したときにオプティカルドライブが正しく機能することを確認してください。
5. 必要に応じて、マルチベイ固定つまみを取り付けます。詳しくは、[2-31](#)ページの「マルチベイ固定つまみのロックおよび解放」を参照してください。

ドライブが動作しない場合は、必要なデバイス ドライバがシステムにインストールされていることを確認してください。必要なドライバがインストールされていない場合は、HPのWebサイト、<http://www.hp.com/jp>から無料でダウンロードすることができます。[サポート&ドライバ]→[ドライバ&ソフトウェアをダウンロードする]の順に選択してコンピュータのモデル番号を入力し、[Enter]キーを押します。

## マルチベイ用ハードディスク ドライブのパーティション分割およびフォーマット




---

この手順を完了するには、Administrator権限を持つアカウントでログオンする必要があります。

---

1. すべてのソフトウェア アプリケーションを終了し、オペレーティング システム ソフトウェアをシャットダウンして、コンピュータの電源を切ります。
  2. マルチベイ用ハードディスク ドライブをマルチベイに挿入します。詳しくは、[2-35 ページの「マルチベイへのドライブの挿入」](#)を参照してください。
  3. コンピュータの電源を入れます。
  4. [スタート]メニューをクリックします。
  5. [マイ コンピュータ]アイコンを右クリックし、[管理]をクリックします。
  6. [記憶域]をクリックし、[ディスクの管理]をダブルクリックします。
  7. マルチベイ ハードディスク ドライブの未割り当て領域を右クリックし、[新しいパーティション]をクリックします。画面に表示されるメッセージをよく読み、指示に従って操作します。
- 詳しくは、[操作]→[ヘルプ]の順に選択して表示されるヘルプを参照してください。

## dc7600 US

<b>寸法</b> (縦置き時)	
高さ	315 mm
幅	70 mm
奥行き	335 mm
<b>質量 (概算)</b>	
6.3 kg	
<b>最大荷重 (横置き時)</b>	
35 kg	
<b>温度範囲 (標高により変化する)</b>	
動作時	10~35°C
非動作時	-30~60°C
 動作温度は、継続的に直射日光の当たらない環境で、海拔3,000 mまで300 mごとに1.0°C下がります。最大変化率は10°C/時です。取り付けられたオプションの種類および数によって、上限が異なります。	
<b>相対湿度 (結露せず)</b>	
動作時 (28°C最高、湿球)	10~90%
非動作時 (38.7°C最高、湿球)	5~95%
<b>動作保証高度 (非圧縮)</b>	
動作時	3,048 m
非動作時	9,144 m
<b>衝撃 (11ms 1/2正弦衝撃パルス)</b>	
動作時	5 G
非動作時	20 G
<b>振動 (ランダム、公称G)</b>	
動作時 (10~300 Hz)	0.25
非動作時 (10~500 Hz)	0.50

**dc7600 US（続き）**

<b>電源</b>		
動作電圧	90～264 VAC	90～264 VAC
定格電圧範囲*	100～240 VAC	100～240 VAC
周波数	50/60 Hz	50/60 Hz
<b>電源出力</b>		200 W
<b>定格入力電流（最大）*</b>	4 A	2 A
	（100 VACの場合）	（200 VACの場合）
<b>放熱効率</b>		
最大	1050 BTU/時	265 kcal/時
通常（非動作時）	341 BTU/時	86 kcal/時

\*このシステムは、電圧自動補正電源を使用しています。これにより、欧州連合加盟国でこのシステムを使用する場合のCEマークの要件を満たしています。また、電圧自動補正電源により電圧選択スイッチが不要なため、スイッチは搭載されていません。



---

## バッテリーの交換

お使いのコンピュータに付属のバッテリーは、リアルタイム クロックに電力を供給するためのものです。バッテリーを交換するときは、コンピュータに最初に取り付けられていたバッテリーと同等のバッテリーを使用してください。コンピュータに付属しているバッテリーは、3 Vのボタン型リチウム バッテリーです。



リチウム バッテリーの寿命は、コンピュータをACコンセントに接続することで延長できます。リチウム バッテリーは、コンピュータがAC電源に接続されていない場合にのみ使用されます。



**警告：**お使いのコンピュータには、二酸化マンガン リチウム電池が内蔵されています。バッテリーの取り扱いを誤ると火災や破裂などの危険があるので以下のことを守ってください。

- バッテリーを充電しないでください。
- バッテリーを60℃を超える場所に放置しないでください。
- バッテリーを分解したり、つぶしたり、ショートさせたり、火中や水に投げたりしないでください。
- 交換用のバッテリーは、必ずHPが指定したものを使用してください。



**注意：**バッテリーを交換する前に、コンピュータのCMOS設定のバックアップを作成してください。バッテリーが取り出されたり交換されたりするときに、CMOS設定がクリアされます。CMOS設定のバックアップ作成については、Documentation and Diagnostics CDに収録されている『コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ ガイド』を参照してください。

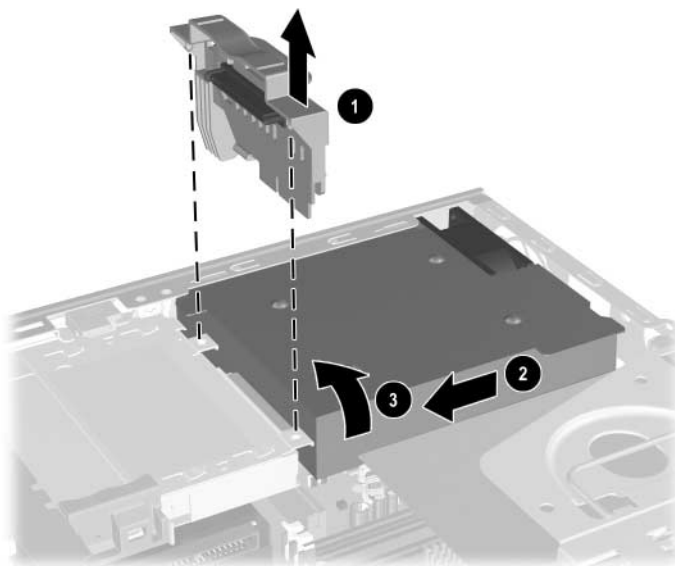


バッテリーを処分する場合は、お住まいの地域の地方自治体の規則または条例に従って、公共の収集システム等を利用して正しく廃棄またはリサイクルしてください。



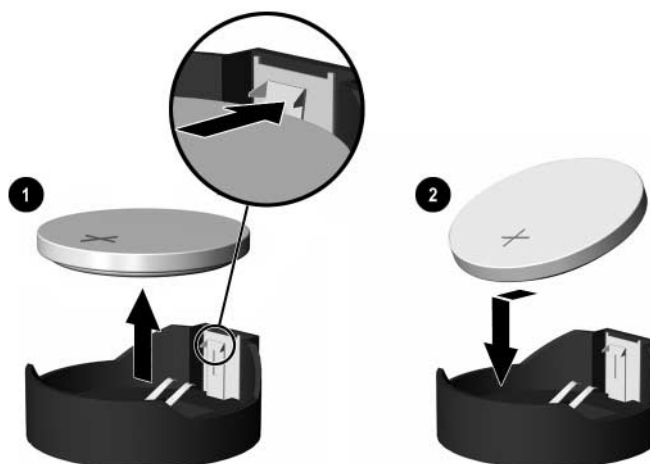
**注意：**静電気の放電により、コンピュータやオプションの電子部品が破損することがあります。以下の手順を始める前に、アースされた金属面に触れるなどして、身体にたまった静電気を放電してください。

1. スマート カバー センサ機能が搭載されたモデルをお使いの場合は、必要に応じて、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用してスマート カバー センサを無効にします。詳しくは、**Documentation and Diagnostics CD**に収録されている『コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ ガイド』を参照してください。
2. マルチベイからドライブを取り外します。詳しくは、[2-34ページの「マルチベイからのドライブの取り外し」](#)を参照してください。
3. オペレーティング システムを適切な手順でシャットダウンし、コンピュータと外付けデバイスの電源をすべて切ります。電源コードをACコンセントから抜き、すべての外付けデバイスとの接続を外します。
4. コンピュータのアクセス パネルを取り外します。詳しくは、[2-1ページの「アクセス パネルの取り外しと取り付け」](#)を参照してください。
5. マルチベイのドータ カードをコンピュータからまっすぐ上に引き出して、取り外します①。
6. 電源供給装置を前方に引っ張り②、右側を引き上げます③。
7. 電源供給装置をコンピュータから引き出します。



電源供給装置の取り外し

8. システム ボード上のバッテリーおよびバッテリー ホルダの位置を確認します。
9. バッテリー ラッチを解放して、ホルダからバッテリーを取り出します①。
10. 交換するバッテリーを、「+」と書かれている面を上にして持ち、つまみがバッテリーの上端にはまるまで、バッテリーを押し下げます②。



## バッテリーの交換



バッテリーの交換後、以下の手順で操作すると交換作業は完了です。

11. 電源供給装置を取り付けなおします。
  - a. 電源の左側をゆっくりと所定の位置に合わせます。
  - b. 電源の右側を止まるまで押し下げます。
  - c. 正しい位置にロックされるまで電源をスライドさせます。
12. マルチベイのドータ カードを慎重にコネクタ スロットの位置に合わせ、しっかりと押し込んで取り付けなおします。
13. マルチベイ ドライブを取り付けなおします。
14. 必要に応じて、マルチベイ 固定つまみを取り付けます。
15. コンピュータのアクセス パネルを取り付けなおします。

16. すべての外付けデバイスを取り付け、電源コードをACコンセントに差し込んで、コンピュータの電源を入れます。
17. コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを使用して、以下の手順を実行します。
  - a. 日付と時刻を設定します。
  - b. パスワードを設定します。
  - c. 特別なシステム セットアップを設定します。
  - d. スマート カバー センサ機能を搭載したモデルをお使いの場合は、必要に応じて、スマート カバー センサを有効にします。

詳しくは、Documentation and Diagnostics CDに収録されている『コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ ガイド』を参照してください。

## セキュリティ



データセキュリティ機能について詳しくは、Documentation and Diagnostics CDに収録されている『コンピュータセットアップ (F10) ユーティリティガイド』と『デスクトップマネジメントについて』を参照してください。また、一部のモデルでは[www.hp.com/jp](http://www.hp.com/jp)から入手できる『HP ProtectToolsセキュリティマネージャガイド』も参照してください。

### オプションのセキュリティ ロックの取り付け

下の図および次ページの図に示すセキュリティ ロックは、dc7600 USを保護するために使用できます。

#### ケーブル ロック



ケーブル ロックの取り付け

## 南京錠



コンピュータの施錠

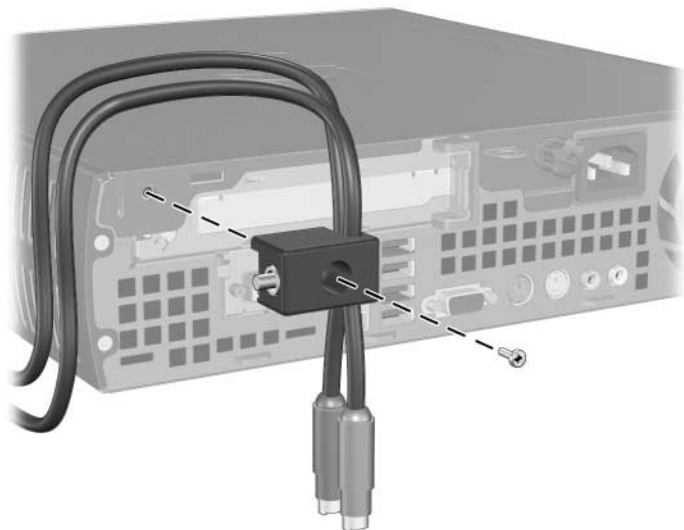
## ユニバーサル シャシー クランプ ロック

### セキュリティ ケーブルを使用しない場合

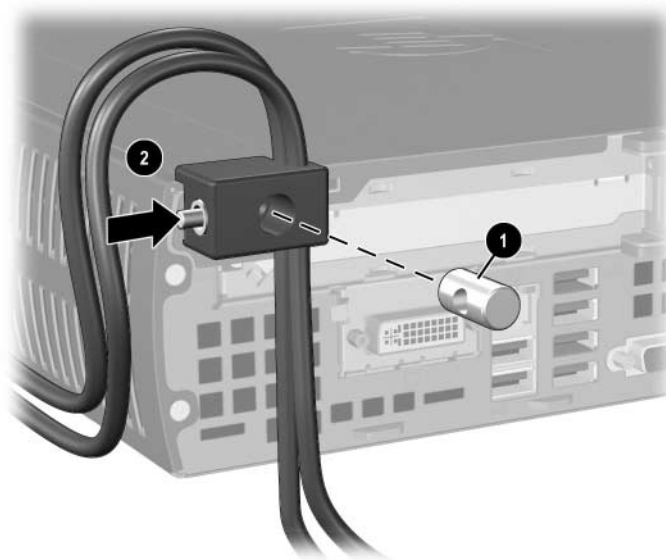
1. キーボードとマウスのケーブルを錠に通します。



2. 付属のネジを使用して、錠をコンピュータ本体に固定します。



3. 栓を差し込み①、ボタンを押し込んで②ロックします。ロックを外すには、付属の鍵を使用します。





## セキュリティ ケーブルを使用する場合

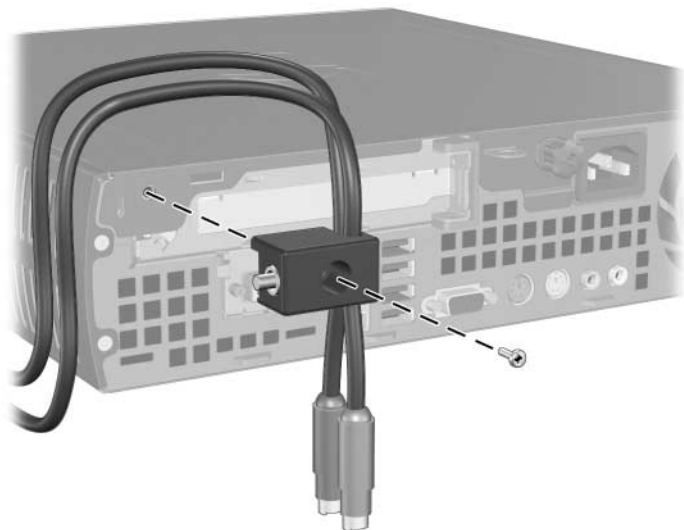
1. セキュリティ ケーブルを固定物に巻きつけます。



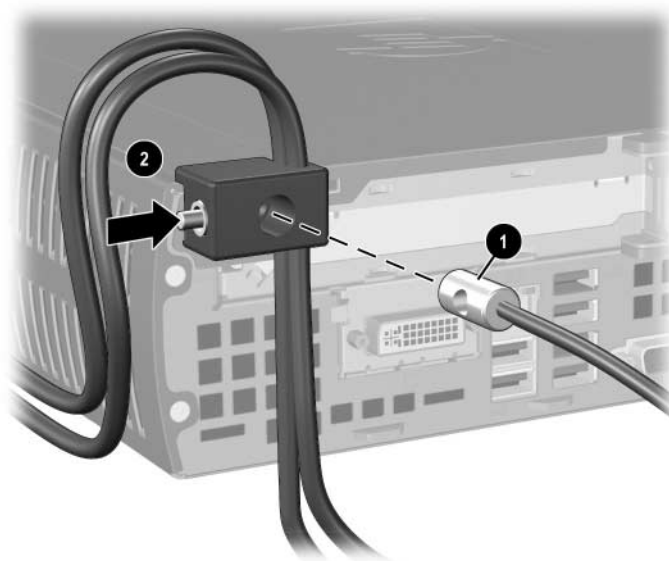
2. キーボードとマウスのケーブルを錠に通します。



3. 付属のネジを使用して、錠をコンピュータ本体に固定します。



4. セキュリティ ケーブルの端の栓を差し込み①、ボタンを押し込んで②ロックします。ロックを外すには、付属の鍵を使用します。



---

## 静電気対策

人間の指など、導電体からの静電気の放電によって、システム ボードなどのデバイスが損傷したり、耐用年数が短くなったりすることがあります。

### 静電気による損傷の防止

静電気による損傷を防ぐには、以下のことを守ってください。

- 運搬や保管の際は、静電気防止用のケースに入れ、手で直接触れることは避けます。
- 静電気に弱い部品は、静電気防止措置のなされている作業台に置くまでは、専用のケースに入れたままにしておきます。
- 部品をケースから取り出す前に、まずケースごとアースされている面に置きます。
- ピン、リード線、および回路には触れないようにします。
- 静電気に弱い部品に触れるときには、つねに自分の身体に対して適切なアースを行います。

## アースの方法

アースにはいくつかの方法があります。静電気に弱い部品を取り扱うときには、以下のうち1つ以上の方法でアースを行ってください。

- すでにアースされているコンピュータのシャーシにアース バンドをつなぎます。アース バンドは柔軟な帯状のもので、アース コード内の抵抗は、 $1M\Omega \pm 10\%$ です。アースを正しく行うために、アース バンドは肌に密着させてください。
- 立って作業する場合には、かかとやつま先にアース バンドを付けます。導電性または静電気拡散性の床の場合には、両足にアース バンドを付けます。
- 磁気を帯びていない作業用具を使用します。
- 折りたたみ式の静電気防止マットが付いた、携帯式の作業用具もあります。

上記のような、適切にアースを行うための器具がない場合は、サポート窓口にお問い合わせください。



---

静電気について詳しくは、サポート窓口にお問い合わせください。

---

---

## コンピュータ操作のガイドラインおよび 手入れと運搬時の注意

### コンピュータ操作のガイドラインおよび手入れに関する注意

コンピュータおよびモニタのセットアップや手入れを適切に行えるよう、以下のことを守ってください。

- 湿度の高い所や、直射日光の当たる場所、または極端に温度が高い場所や低い場所には置かないでください。コンピュータを使用する際に推奨される温度範囲と湿度範囲については、このガイドの「付録A 仕様」を参照してください。
- コンピュータは、机のようなしっかりとした水平なところに設置してください。また、通気が確保されるよう、コンピュータの通気孔のある面とモニタの上部に、少なくとも10.2 cmの空間を確保してください。
- 内部への通気が悪くなるので、絶対にコンピュータの通気孔をふさがないでください。キーボードを横置き構成の本体のフロント パネルに立てかけることも、お止めください。
- コンピュータのカバーやサイド パネルを取り外したまま使用しないでください。
- コンピュータを積み重ねたり、互いの排気や熱にさらされるほどコンピュータ同士を近くに置いたりしないでください。
- コンピュータを別のエンクロージャに入れて操作する場合、吸気孔および排気孔がエンクロージャに装備されている必要があります。また、この場合にも上記のガイドラインを守ってください。
- コンピュータ本体やキーボードに液体をこぼさないでください。
- モニタ上部の通気孔は、絶対にふさがないでください。
- スリープ状態を含む、オペレーティング システムやその他のソフトウェアの電源管理機能をインストールまたは有効にしてください。

- 以下の項目については、必ずコンピュータの電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてから行ってください。
- コンピュータやモニタの外側、およびキーボードの表面が汚れたら、水で軽く湿らせた柔らかい布で汚れを落とした後、けばださない柔らかい布で拭いて乾かしてください。洗剤などを使用すると、変色や変質の原因となります。
- コンピュータの通気孔やモニタ上部の通気孔は、ときどき掃除してください。糸くずやほこりなどの異物によって通気孔がふさがれると、内部への通気が悪くなり、故障の原因となります。

## オプティカル ドライブの使用上の注意

オプティカル ドライブの操作や手入れは、次の項目に注意して行ってください。

### 操作および取り扱いに関する注意

- 操作中はドライブを動かさないでください。データ読み取り中にドライブを動かすと誤動作することがあります。
- 急に温度が変化するとドライブ内に結露することがあるので気をつけてください。ドライブの電源が入っているときに急な温度変化があったときは、1時間以上待ってから電源を切ってください。すぐに操作すると、誤動作が起きることがあります。
- ドライブは高温多湿、直射日光が当たる場所、または機械の振動がある所には置かないでください。

### クリーニングの際の注意

- フロント パネルやスイッチ類が汚れたら、水で軽く湿らせた柔らかい布で拭いてください。決して、クリーニング液を直接スプレーしないでください。
- アルコールやベンジンなど、揮発性の液体を使用しないでください。変色や、変質の原因となります。

## 安全にお使いいただくためのご注意

ドライブの中に異物や液体が入ってしまった場合は、直ちにコンピュータの電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いて、HPのサポート窓口に応相談を依頼してください。

## 運搬時の注意

コンピュータを運搬する場合は、以下のことを守ってください。

1. ハードディスク内のファイルのバックアップをCD、テープ カートリッジ、またはディスクットにとります。バックアップをとったメディアは、保管中または運搬中に、電気や磁気の影響を受けないよう気をつけます。



ハードディスク ドライブは、システムの電源が切れると自動的にロックされます。

2. ディスクット ドライブにディスクットが挿入されている場合は取り出して、別の空のディスクットを挿入して運搬中のドライブを保護します。データを保存したディスクットや保存する予定のディスクットは使用しないでください。
3. オプティカル ドライブにメディアが挿入されている場合は取り出します。
4. コンピュータと外部装置の電源を切ります。
5. ACコンセントから電源コードを抜き取り、次にコンピュータからも抜き取ります。
6. 外部装置の電源コードをACコンセントから抜いてから、外部装置からも抜き取ります。



すべてのボードがスロットにしっかりとはめ込まれていることを確認します。

7. お買い上げの時にコンピュータが入っていた箱か、同等の箱に保護材を十分に詰め、コンピュータとキーボードやマウスなどの外部システム装置を入れて梱包します。



運搬中の環境条件については、このガイドの「[付録A 仕様](#)」の非動作時の項目を参照してください。

# 索引

## A

[Alt]キー 1-4

## C

CDドライブ、マルチベイ 2-29

[Ctrl]キー 1-4

## D

DIMM、システムメモリの増設 2-11～2-17

DVDドライブ、マルチベイ 2-29

DVI-Dモニタコネクタ 1-3

## I

IEEE 1394、PCI拡張カード 2-17

## M

MPEG-2ソフトウェア 2-29

## N

NIC、PCI拡張カード 2-17

## P

PCI拡張カード

IEEE 1394 2-17

NIC 2-17

グラフィックス 2-17

取り付け 2-17～2-21

取り外し 2-22～2-24

無線LAN 2-17

モデム 2-17

## R

RJ-45コネクタ 1-3

## U

USB 1-3

## W

Windowsロゴキー 1-5

位置 1-4

## あ

アースの方法 D-1

アクセスパネル

取り外し 2-1～2-3

アプリケーションキー 1-4

運搬時の注意 E-3

オーディオコネクタ 1-3

オプティカルドライブ、マルチベイ 2-31, 2-34

## か

拡張カード

IEEE 1394 2-17

NIC 2-17

グラフィックス 2-17

取り付け 2-17～2-21

取り外し 2-22～2-24

無線LAN 2-17

モデム 2-17

## 各部

フロントパネル 1-2

リアパネル 1-3

[カタカナ ひらがな]キー 1-4

過熱、防止 1-6

キーボード 1-4

PS/2ポート 1-3

Windowsロゴキー 1-5

グラフィックス、PCI拡張カード 2-17

ケーブルコネクタ、ハードディスクドライブ 2-28

ケーブルロック、オプション C-1

## 構成

縦置き 1-6

構成、縦置きまたは横置き 1-6

コネクタ、ハードディスクドライブ 2-28

コンピュータ

運搬時の注意 E-3

操作のガイドライン E-1



## さ

仕様	A-1
シリアル コネクタ	1-3
シリアル番号	1-6
スーパーディスクLS-240ドライブ、マルチベイ	2-29
ステータス ランプ	1-4
スペース バー	1-4
静電気	D-1
静電気の放電	D-1
セキュリティ	C-1
マルチベイ	2-31～2-33

## た

縦置き構成	1-6
ディスクレット ドライブ、マルチベイ	2-29, 2-34
電源	
コード コネクタ	1-3
ドライブ、マルチベイ	2-29
取り付け	
PCI拡張カード	2-17～2-21
オプティカル ドライブ	2-31
内蔵ハードディスク ドライブ	2-24～2-28
ハードディスク ドライブ、マルチベイ用	2-35～2-36
マルチベイ ドライブ	2-35～2-36
取り外し	
PCI拡張カード	2-22～2-24

## な

内蔵ハードディスク ドライブ、アップグレード	2-24～2-28
南京錠、オプション	C-2

## は

ハードディスク ドライブ	
内蔵、取り付けおよび取り外し	2-24～2-28
復元	2-29
マルチベイ	2-29, 2-35, 2-36
パーティション分割およびフォーマット	2-36
バッテリーの交換	B-1
パネル	
アクセス パネルの取り外し	2-1, 2-3
パラレル コネクタ	1-3
[半角/全角]キー	1-4
フロント パネルの各部	1-2

ヘッドフォン ラインアウト コネクタ	1-3
編集キー	1-4

## ま

マウス	
PS/2コネクタ	1-3
マルチベイ	2-29～2-34
CDドライブ	2-29
DVDドライブ	2-29
MPEG-2ソフトウェア	2-29
オプションのドライブ	2-29
オプティカル ドライブ	2-31, 2-34
セキュリティ	2-31～2-33
注意	2-30
ディスクレット ドライブ	2-34
ドライブの挿入	2-35
ドライブの取り外し	2-34
ドライブのホットプラグまたはホットスワッ プ	2-30
ハードディスク ドライブ	2-35
ハードディスク ドライブのパーティション分 割およびフォーマット	2-36
マルチベイ ドライブのホットプラグまたはホッ トスワップ	2-30
マルチベイ用ハードディスク ドライブのパー ティション分割	2-36
マルチベイ用ハードディスク ドライブのフォー マット	2-36
無線LAN、PCI拡張カード	2-17
メモリ、システム	2-11～2-17
モジュールの取り付けまたは取り外し	2-14～2-17
モデム、PCI拡張カード	2-17
モニタ コネクタ	1-3
DVI-D	1-3

## や

矢印キー	1-4
横置き構成	1-6

## ら

リア パネルの各部	1-3
ロゴ キー	1-4
ロック	
ケーブル	C-1
南京錠	C-2